

HSK



第 54 号

昭和48年1月13日 第3種郵便物認可
H. S. K通巻279号

発行日 平成7年6月10日
(毎月10日発行)

編集 北海道腎臓病患者連絡協議会
札幌市北区北35条西5丁目1-10
AMS南麻生308号

発行 北海道身体障害者団体定期刊行物協会
札幌市中央区北9条西19丁目55
細川 久美子

平成7年 初夏号

第38回道腎協ブロック会議開催



真狩のジャガイモ畑

撮影 鈴木 則夫 氏

北海道腎臓病患者連絡協議会

あれから50年

北海道腎臓病患者連絡協議会

会長 岩崎 薫



今年は1945年(昭和20年)8月15日の終戦から50年になる。半世紀の時の流れは世界から日本、そしてわたしたちの生活を驚くほど様変わりさせた。新聞、テレビ、雑誌をはじめマスコミは、この大きな区切りの年に50年を振り返る企画記事や特集を相次いで掲載している。

「人生50年」と、かつていわれたぐらいだから、この半世紀は人の一生にも匹敵する年月である。特に終戦直後を知ってい

る世代にとっては、報道に接するたびにいろいろなことが頭をよぎり感慨ひとしおである。

かく言う私もその1人。たとえば食べもののほとんどがなかったし、今の子供たちが食事を残すのが気になって仕方がない。つい小言を言って家族に嫌がれている。新聞、雑誌にそんなことがかいてあると特に興味深く読んでいます。

終戦時の昭和20年1月、私は一兵卒として入隊。農村出身の屈強で頑健な同年兵は直ちに沖縄へ広島湾から輸送船7艘で、夜分に乘じて出港した。だが沖縄到着は3艘のみで、あとの4艘は、海の藻屑と消え去っていったのである。私はどうであったか。体が虚弱なためか沖縄では「使いものにならない」と士官

は見抜いたのであろう。私を含めて何名かと一緒に旭川の前線に残された。

それが私の人生の生涯の分岐点であった。旭川前線で八月終戦を迎え、やがて札幌のS局に復員した。

終戦時10月札幌には「米軍一箇師団(空挺部隊)」が進駐した。真駒内には米軍専用の自動電話が設置中であつた。私は保安要員として勤務。昭和20年11月から五ヶ年にも及ぶ勤務であつた。戦勝国アメリカと敗戦国日本とで、食物の差別をまざまざと見せつけられたのがこの時代であつた。私共には喰物が一切与えられず沢庵の尻尾をかじりパンの端切れを貰うのが最高のご馳走だったのである。それでも敗北ということが常時脳裡にあって文句を云う職員は居なかつた。

一方米軍は「真白いパン」を端の方は切り捨て、バターチーズ、ミルクをたっぷりつけてコーヒー、ココアを飲む。食後のデザートはバナナ、パイなどなど盛沢山にテーブルにつまれていた。

終戦から10年を経た昭和30年

頃までは、耐乏生活。ないないづくし生活で、食事以外は余り苦しさを感じなかつた。みんながそうであつたからだろうか。

やがて戦後50年を経て、今日の飽食の時代を迎える。物資は豊富で高度経済成長の日本は、戦後の時代はとうの昔に過ぎ去つたというか……。

しかしそんな高度経済成長を喜んでばかりはいられない。関東大震災以来といわれる阪神大震災が、奇しくも戦後50年の歳に起きたからである。

このための都市づくりから建造物まで、あらゆることを根底から見直さなければならなくなつた。

私共透析患者も、当初の透析導入から今日を振り返ってみると、検査料、透析医療費、ダイアライザーの切下げ等、次は何を見直されるのか。

戦後50年を経て日本の軌跡が生れ、透析患者の増加に伴って、医療費は抑制され、あの手この手の厳しい医療制度となつてくることが予想されるからである。

第38回道腎協ブロック会議開催

平成7年4月20、21日の両日、

札幌市の北海道難病センターと北海道教育会館（ホテルユニオン）の2ヶ所で、役員・オブザーバー・事務局員合計34名により、第38回道腎協ブロック会議が開催されました。

開催に先立ち、同じ仲間の逝去を悼み全員で黙とうを捧げ冥福を祈りました。

岩崎会長からは、透析患者の



あいさつする岩崎会長

社会保障問題

・透析医療費定額制によるダイアライザー・リサイクル不安

・健康保険法改悪による入院給食費一部負担

患者会のあり方

（・患者会組織への積極的参加）

家族のあり方

・家族の思いやり、はげましなどのお話があり、益々きびしい時代をむかえるなか皆で力を合わせのり越えましょうという挨拶がありました。

函館の田中政夫運営委員を議長に選出して議事に入りました。

1、報告事項

(1) 全腎協第68回幹事会報告

主な内容として

○臓器移植法案審議促進を求める運動

○日本腎臓移植ネットワーク設立の件

○新宿西診療所の劇症肝炎死亡事故に関するその後の経過について

○厚生省の研究会が高齢者の介護について、公的保険の創設をめざしていることについて

○阪神大震災への対応について
○平成7年度の活動方針案について
佐藤利國運営委員から説明がありました。

(2) 各ブロック活動報告

○札幌 結成20周年記念祝賀パーティを開催。
20周年記念誌「生きる仲間」を発行。

○旭川 役員研修会実施。

○稚内 天人峡紅葉温泉旅行を1泊で行ったこと。

○函館 市立函館病院が2000年を目標に新築移転される。

○苫小牧 腎友会結成20周年記念祝賀会を開催。
王子総合病院が移転新築し、平成9年5月に開設する。

○室蘭 入院給食費自己負担導入により、更生医療の手續きが面倒な為、全額自己負担している。

○滝川 第9回ボーリング大会





会開催。

○十 勝 芽室町立病院と上士

幌町内の病院の2ヶ所で今年の11月頃から、透析施設が開設される予定。

○釧 路 市へ通院交通費増額

及び道腎協総会の補助申請。

○網 走 美幌町立病院で、透

析開始。

○紋 別 道立紋別病院で、透

析開始。

○浦 河 福祉ハイヤーを内部

障害者（1級）にも対象を広げる。

以上のブロック活動報告がありました。

(3) 第24次国会請願報告

事務局より、3月30日に行われた第24次国会請願報告がされました。当日は全国から150名を越える会員が集合し、午前の請願集会では、国會議員9名のあいさつと、議員秘書39名の方が、選挙準備で忙しいのにもかかわらず出席いただき激励していただきました。午後からは一斉に、各県単位に請願行動を実施しました。詳細は下段、北さんの報告をお読みください。

2、討議事項

(1) 第18回定期総会議案書について

- ① 平成6年度活動報告
 - ② 平成6年度決算報告
 - ③ 平成6年度会計監査報告
 - ④ 平成7年度活動方針（案）
 - ⑤ 平成7年度予算（案）
 - ⑥ スローガン（案）
 - ⑦ 総会宣言（案）
 - ⑧ 平成7年度役員候補（案）
 - ⑨ 規約改正（案）
- 以上、原案通り承認されました。

皆さん患者さんでもあるにもかかわらず、2日間長時間の会議、お疲れさまでした。

第24次国会請願に参加して

役員の方も年々高齢化になってきていますので、身体には充分気をつけていただきたいと思います。

北 征 子（小樽）

小樽後志地方腎友会幹事になって2年、道腎協の幹事をさせてもらって1年にもみたくない私が、はれがましい場所に出席させてもらい、まず最初にびっくりしたのは議員会館に入館する時、受付で通

行証を発行してもらい、それから集合場所の会議室に入るまでの手続きの面倒くささ。中に入ったらもう他府県よりたくさんの方の代表がおりましたが、みんな明るく一生懸命な姿に感動しましたし、テーブルの上にある請願書の山々……みんな頑張っているなと感じました。

主催者のあいさつがあり、油井会長の話になり、今年は92万人の署名で終わったが、来年は100万人の署名を目標にしたいとの事で話を聞いていて、北海道ももう少し頑張つてこの次はもっと多く持つていきたいと思えます。

あと腎疾患総合対策のかなめとして、5つの要望をだされ、午後から副会長の廣岡さん、事務局長



左から廣岡、川村、北の3氏



全国から集まった署名を前にいざ出陣

の川村さんと私の3人で、道選出の国会議員8名の所に請願書を持って廻りました。

言葉では福祉の事を言ってくれるが中味の事は余りわかっていない。もう少し透析患者又は難病の人、又はこれから高齢化社会にもなる事なので、福祉を考え、力を入れてもらいたいと思う。

別に私たちも病人だからと、あまえる事なく積極的に道腎協各ブロックのため、自分自身のため、少しでも早く社会参加を考え頑張っていかなければと、あらためて考

えさせられた1日でした。大変勉強になりました。みなさんもこのような機会がありました

ら、進んで参加されたらよいと思います。

チャレンジ人生

推薦の言葉

苦小牧腎友会の要、会計の仕事をしています。堅実な仕事ぶりです。本業・家庭・趣味と多忙な日々を送っております。

高橋 久夫 (46歳)

苦小牧腎友会



① 透析までの経過

私が慢性腎不全の診察を受けたのは、平成元年40歳の時でした。自覚症状は余りなかったのです

が、血圧が高かったため病院に行き、診察の結果が慢性腎不全（IGA腎炎）でした。その後、平成3年11月まで慢性腎不全の治療を続け、その間3回の入院があり、その年の11月より透析生活が始まりました。

当時は私の身近に透析をしている人がいませんでしたので、これからの生活がとても不安でした。

透析を開始してまもなく、苦小牧腎友会（つくし会）の人達と接する機会があり、彼らの元気な姿

は、とても私の気持ちに勇気を与えてくれました。

② 現在の日常生活について

平成5年より、腎友会の仕事（会計）を手伝わせて頂いております。腎友会の仕事をする事で会員の人や役員の人と出会い、話すことができ、少しずつ透析のことがわかるようになりました。また、透析導入が苦小牧市立病院でしたので、当時同じ時期に導入した人達（山田弘さん・佐藤妙子さん・黒田都祇子さん・橋谷田節さん・砂川春江さん・黒木ヒサエさん・藤原美智子さん・村上弘美さん）と会を作り、月に一度程度食事等をしていただき、健康状態や身近の話などしています。機会があれば、一泊程度の旅行もしたいと思っています。また、私たち透析をしている人達は、運動不足がちなので、みんなとスポーツなどしたいと思っています。

③ 食事などの自己管理で注意している事

食事の管理は、導入当時はまめにしていました。仕事を再開し

てからは余り管理が行き届いては
いませんで、リン等が高くスタッ
フの人達より注意をされる時もあ
ります。仕事をしていると、外食
が多くなりやすく食事の管理はし
ずらくなります。水分の管理はわ
りとよく、体重増加も1kg(中1
日)から2kg(中2日)程度です。

④ 将来に対する希望

私の趣味は以前から初めている
ゴルフです。病気が発覚して数年
中止をしていましたが、透析が安
定してから又始めました。ゴルフ

を通じての知人も多いので、これ
からもできるだけながくゴルフが
できる様にしたいと想います。

今は、ゴルフをし、仕事をし、
又、友達と食事などし、透析をし
ているハンデをなるべく感じない
ようにしています。

腎友会の仕事をして感じることは、
会への参加者の少ないことです。
色々な行事への参加者は毎回
同じ顔ぶれです。できるだけ時間
を作り、会の行事へ参加して下さ
い。みんなで素晴らしい腎友会を作
って行きましょう。

ブレック便り

十勝ブロック

「第11回・定期総会結果報告」

去る4月16日(日曜日)、午前10
時より、帯広市総合福祉センタ
ーに於いて十勝地方腎友会の第11回・
定期総会が開催されました。午前
9時30分より受付を開始、十勝地
方腎友会々員家族、透析スタッフ

など合わせて計36名が出席しまし
た。司会は事務局長の岡崎由紀夫
氏が担当。まずはじめに出席者全
員で1分間の黙とうを行い、続い
て会長鈴木茂氏の挨拶の後、来賓
の挨拶がありました。当日は来賓

として衆議院議員・中川昭一代議
士、衆議院議員・鈴木宗男代議士
の秘書の宮野明氏、帯広市長・高
橋幹夫氏の代理として帯広市総合
福祉センター館長・板橋博氏、帯
広市議会議員・野上茂登子議員が
出席されました。十勝地方腎友会
としては今回初めて「透析20年以
上の会員表彰」が行われ、帯広ク
リニックの井尾博之氏と、とかち
病院の加藤健爾氏の2人に会長よ
り賞状と記念品が手渡されました。
議長に顧問・加藤健爾氏が選出さ
れ議事進行。事務局より平成6



会長：鈴木茂氏の挨拶



透析20年以上の会員表彰
(井尾博之氏[右]と加藤健爾氏)



衆議院議員：中川昭一代議士の挨拶

年度活動報告、会計・松田ツカサ
んより平成6年度会計収支決算報
告、会計監査・円城寺幸男氏より



出席者全員での記念撮影

平成7年度に於ける十勝地方腎友会の活動に向けて抱負を述べられて、無事、第11回・定期総会は閉

会となりました。

(報告…十勝地方腎友会)

苦小牧ブロッツ

「苦小牧腎友会発足20周年 記念祝賀会を終えて」

去る3月12日(日)12時より、苦小牧プリンスホテルにおいて、苦小牧腎友会発足20周年記念祝賀会をとり行ないました。

当日はやわらかい春の日ざしのもと、来賓のご臨席を賜り、参加者一人ひとりの表情は一段と明るく落ち着いた雰囲気の中、定刻の正午、八巻実行委員長の司会により、参加者一同物故会員に対する黙祷を捧げ、心からのご冥福を祈りました。

開会にあたり廣岡会長より、透析治療の歴史的経緯・透析治療21年の自らの生活体験・現状における医療環境の厳しさと今後の課題等を含めての挨拶。

つづいて祝辞に入り、苦小牧鳥

越市長代理として、保健衛生課長

田村章様より「市における医療、

福祉行政の立場から今後共あた

かい手を差し伸べていきたい」と

のお言葉を。又、腎友会顧問であ

り苦小牧市議会議員吉田正義様は、

奥さまが20年前透析に入り、5年

前に亡くなられましたが、当時の

ご苦労や貴重な参考意見と励まし

のお言葉を賜りました。

つぎに、長期透析者20年以上の

表彰をおこないました。

一口に20年と申し上げても、透

析初期段階の状況を知ることによ

り、大変なご苦労を推察できます。

わたしたちは、これら先輩のご

努力に敬意を表し、多くを学びとつ

ていかなければならないと思いま

す。

受彰者を代表して、帰山明進さんより貴重な体験と今後更に力強く生き抜くことへの決意の言葉が述べられ、会場に大きな感動の場面がかもし出されました。

次に、いよいよ祝宴となり、田村前会長(現相談役)の挨拶と力強い音頭により乾杯をおこない、和やかな雰囲気の中で懇談に移りました。出されたご馳走の味は又、格別で、冷たいビールが適当にのどをうるおし、懇談も充分満たされた頃合いを見計らって、副会長佐



透析20年者の表彰式

々木樹氏により挨拶と結びの乾杯をいたしました。

そして、閉会の言葉は、八巻実行委員長から腎友会の在るべき姿、役割についての確認と、今後会員一同の連帯感を強めることの大切さと、会の発展を願いながら祝賀会を終了いたしました。

おわりに、透析を導入して間もないわたしにとって、学ぶことの多い大変有意義な行事の一つでした。わたしは、腎友会に入会し、多くの仲間と接することが、ややもすると孤独におちいりがちな気持ちるを明るくし、明日へ力強く生き抜くエネルギーとなつていることに喜びを感じます。そして、透析治療費を全額国が負担して下さっている行政当局のあたにかいご配慮を常に忘れてはならないと思います。

今から20余年前、わたしたちの諸先輩である多くの患者の皆さんの必死になつての国への働きかけが、今日の成果の実現を見たことを肝に銘ずる必要があります。

日頃における医療関係者の熱意に心からお礼を申し上げることは勿論、今一度諸先輩の多くの功

績を讃え、心からの敬意と感謝を申し上げると共に、透析治療の効果を上げるためのポイントともい

うべき理想的な自己管理につとめ、会員一人ひとりが会の発展に一層

滝川ブロック

「平成6年度腎友会滝川クリニック

透析者の会総会」

4月23日、滝川医師会館に於いて、平成7年度の本会の総会が開催されました。

折から市議会議員の選挙投票日であり、加えて生憎の雨でありましたが、透析者及びスタッフ併せて45名の出席者を見ることが出来ました。

この総会に道腎協の岩崎会長さんをお招きし、そのご講演を患者一同心より楽しみにしていました。が、生憎、会長さんは体調を崩され、入院されました。当日は一応退院されてはいたのですが尚大事をとられ、ご出席願う事が出来ませんでした。本当に残念で、また

努力することをたしかめ合いたいと思う今日この頃です。

「生命ある日を大切に生きましよう。」

(報告者…工藤哲郎)

の機会を願って会員一同心からこの快癒をお祈りしました。

定刻、土角会長さんのご挨拶につづき来賓の滝川クリニック菅原院長先生より懇切なるご挨拶をいただきました。又道腎協会長の岩崎さんからの心のおもった祝電も披露されました。ついで議事に先だつて議長に宇野さんが選出され直ちに審議に入りました。平成6年度の事業報告、決算報告が一括上程され全員の承認を得、続いて新年度の事業計画案及び予算案が審議され、これらすべて議案書の通り可決されました。

昼食後、菅原院長先生のご講演



熱気あふれる会場

をいただきました。今回のテーマは、『腎不全治療の歴史』ということで、スライドにより大正初期より年代を追って、今日の透析に至る迄の世界の学者による、たゆまぬ研究と苦心、そして透析機器の推移など非常に面白く、興味深く勉強させていただきました。それにつけても究極は水分、塩分などの自己管理が延命につながる道である事を改めて自覚しました。

終わりに、いよいよ厳しくなつて行く医療行政の中にあつても、菅原先生は信念を以て私達のため

に質の高い透析を続けて下さるとの心強いお言葉を頂きました。当クリニックにお世話になっている私達は、感謝の心を忘れず、恵ま

れている事に気づかねばならないと思いました。

(報告者：嘉 見 照 子)

「第9回ボーリング大会」

盛大に終わる」

3月5日、恒例のボーリング大会が西友滝川店タックボールで開催された。10時ゲームスタート、ビンのはじけるころよい音がいつせいに響きわたった。

今年で9回目となった本大会の参加者は会員、家族、スタッフのみなさんあわせて40名となり盛大となった。参加者間にハンデはつけず、男性、女性、スタッフの3部に分かれて、2ゲームトータルでそれぞれ優勝を争った。男性優勝者には院長杯、女性優勝者には樋郡杯(第3代目会長)、スタッフ優勝者にもトロフィーが贈られるとあってみな真剣な投球で表情もさまざまであり、応援席にいた私はひとりで楽しんでた。私はあいにく体調がすぐれず、今年出場できなかったが、来年は是非ゲー

ムに参加し、できれば優勝をとひそかに心に誓ってみたが、到底無理であることはいうまでもないところである。

11時30分頃全員投球終了、近く



晴れやかな受賞者の皆さん

の焼肉店に会場を移し閉会式となった。

まず成績発表と賞品の授与が行われ、男性優勝は村田和夫さん、女性優勝は岩淵恵美子さん、準優勝は紺野都美子さん、又スタッフの優勝は伊藤洋介さんでした。懇親会は各種焼肉が食べ放題とあって、各テーブルより追加注文の声が乱れ飛び、店員さんも大忙しの様子であった。

お腹も一杯となりお互い交流を深め午後1時30分無事閉会となった。

最後になりましたが、スタッフのみなさんいろいろとお手伝いいただきありがとうございます。又院長先生はご都合で参加いただけませんでしたが、ご祝儀を頂戴し会員一同心よりお礼申し上げます。して報告と致します。

(報告者：山内勝也)

稚内ブロック

「乙竹氏の遺志をついで」

稚内腎友会は、これまで故乙竹隆七会長が頑張つて来られました。が、平成6年6月8日に亡くなられたあと、同7月に臨時総会を開き新たな態勢で発足致しました。

発足当日は、岩崎会長、川村事務局長両氏の来稚を戴き、岩崎会長より心強い透析の体験談、又障害を持ちながら前向きに力強く人間らしく生きて行く姿勢の講話をいただき、皆さん深く感銘を受けました。私は63歳の年になる

まで病氣らしい事もなく健康に暮らしてきました。63歳の秋、カゼがなかなか治らないので初めて病院に行き、精密検査を受けて慢性腎不全と診断されました。それからこの病氣との闘いでした。当時私は、忙しい商売をしておりました。食料品店(2店舗)をし、従業員18名ばかりの先頭に立って、朝の7時には市場のセリに立合い、朝から夜おそくまで立働く毎日でしたので、この病氣との付き合い



天人閣温泉にて

は本当に大変で一口に言い表されず、毎日が苦労の連続でした。あれから月日の過ぎ去るのは早いもので、私も透析7年目を迎えました。今は7年の経験を生かして、会員の皆さんのお役に立てればという気持ちで会長を務めさせて戴いております。

昨年10月には、腎友会初めての旅行会を行いました。

会員の皆さんも、久しぶりの旅行でしたので大変に喜んでいただき、旭川天人閣温泉に、1泊2日の思い出に残る旅行を致して参り



バスの中では話もはずみました

ました。稚内市立病院は透析が1部制ですので、中々余裕の無い週末の繰り返しなので、こういう旅行も会が有るからで、一人では思っても中々出来ませんし会の有り難さがわかりました。

9月には栄養士さん2名、看護婦さん4名、会員とその家族と一緒にオカズの料理講習会をし、和気合い合いとした中で会食を致しました。

初めて、ふれ合い広場に参加(会員8名)して腎バンクのPRに半日汗を流しました。

今年も事業計画の中に、勉強会の機会を作って、会員同志の意識の高揚に、又スタッフ側と話し合いの場を作って行きたい考えております。私は始まって間もない1年生の会長ですので、先輩の皆様の御指導をよろしくお願い致します。(報告者…足立清栄)

ホットライン

「十年一昔、想うこと」

運営委員 田中政夫 (函館)

それは、冬の厳しい季節も終わ

り微かに春の気配が漂う1986年(昭和61年)3月、しかも39年間の会社勤めも完了して58歳の定年退職を迎える直前の透析導入で

ありました。

不幸中の幸いは、2人の息子は大学を卒業し1人は医師に、1人は官庁にそれぞれ職を得て自活していたことです。女房殿にはそれ

から10年世話をかけ、命永らえて来たことを感謝しております。

さてこの欄は「ホットライン」です。野球の『ホット(三塁)コーナ』に色々な打球が乱れ飛ぶこと



く、思いつくままに一つ、二つ述べてみたいと思います。

何の文献か講演かは忘れましたが、内容の要旨は『いまの（昭和61年頃）透析患者数は8万人程います。このさき患者数は右上がりの増加曲線で増え、10年後には曲線は飽和点に達し患者数は横這いになるでしょう。』というものでした。

この推計予測は、増加の傾向値を元に変動要素を加味し、宇宙の衛星軌道も正確無比に計算するコンピュータを使い、10年後には発病患者数と死亡患者数がほぼ同数となり飽和点に達すると、弾き出したものでしょう。

それから今年でほぼ10年、患者は15万人と当時の倍近く増えています。この患者数で飽和点となり横這いになるのでしょうか。

残念ながら現実には予測の域を越え増加しているようです。発病患者が多いからか、また生存患者が多いからか、さすがの大型コンピュータも『人間の生命の不思議』を数式に乗せて計算出来なかったようです。

世の中の事象は常態で経過するものは絶対にあきません。増える透析患者数もきつと減少に転ずるポイントがあるでしょう。

世の中は『数の力』で物事が採用、決定されることが多々あります。私達の患者会は全腎協で約8万人の会員数を擁し患者団体として全国一の規模を誇っています。

この『数の力』を背景に厚生省と透析医療に関し改善、向上を求め交渉し、それなりの成果を獲得して来ました。しかし最近私達は、じりじりと押され土俵際いっばいに詰められていくようです。

全国一の『数の力』も、なぜ無力化に感じるのでしょうか。ここで立場と視点を変えて向こう側（厚生省側）から眺めると私達はどんな風に見えるのでしょうか。

厚生省側は透析医療に関する制度や医療費など総て15万人分を相

手に交渉していることになり、その数のおよそ半分の私達会員の要望、意見は少数要望であり少数意見になるのでしょうか。私達は未加入患者を会に入れ実質『数の力』からも全員の要望、意見としなければなりません。

世間様は、大きな会社団体を一言で『〇〇会社は組織でもっている』『××会社は人でもっている』『△△会社は資金力でもっている』と評し、これがびつたりのを射ています。

さて、私達の患者会是一言で評すると『組織』でしょうか、『人』でしょうか。『資金力』でしょうか。患者会入会にあたり学歴は不問、入会試験無し、忠誠を求める誓約書もありません。たつた一つ『会費』を払うことが必要十分条件で、同じ疾病をもつ特異な共通項で連帯している会です。

これを世間様が一言で『なにになに』と的確に評することは至難の業で、渦中の私達でも一言で自己評価することはむづかしいことです。『資金力』即ち会費を納め集めることが特徴のように思われます。

人と組織と資金力の三位一体がほどよく整い世間様から『あそこはいいね。よくやってる』と評されたいものです。

近ごろ、高齢化社会が進行しているせいか『死』に関する事柄が話題にのぼります。『終末医療』『安楽死』『尊厳死』から『大往生』という著作物まで色々あります。

いままで、閉ざされあまり触れたくない部分でしたが、『いかに生きるか』と同じく『いかに死ぬか』は大切な事と思います。

NHK・TVでオランダ国の『安楽死』を巡るドキュメントが放映されご覧になった方も多いと思います。この番組を観て一番感動したのは、老婦人の毅然とした精神と考え方でした。老婦人が病いのため四肢が不自由のうえ独り暮らしなのを心配して、家庭医は介護をうけるよう説得します。

老婦人は『自分のことが自分で出来ずに、介護をうけて生きること』を、私は望まない」と家庭医に安楽死を懇願します。家庭医は困惑し後日の訪問を約して、去って間もなく老婦人は独り安らかな自然死で生涯を閉じたのです。

広報員通信

老婦人の精神の強靱さはどこから生まれたのでしょうか。小さい時から培った独立の精神でしょうか。敬けんな信仰からでしょうか。私達も、自分のことは自分でと教えられそれを実行し、神や仏に手を合わせて信仰しているつもりです。しかし、名もなく貧しい一市井人のあの老婦人の強靱で凛々とした精神には遠くおよびません。

「アイツに夢中」

大石

聡(旭川)

1945年(昭和20年)の敗戦から50年、この半世紀を生きて来て『多様な価値観』の一言で『何でも出来る』ことが許される世の中になったようです。

我が世の春と咲き誇る『多様な価値観』は実を結ぶのでしょうか。仇花で散ってしまうのでしょうか。妄言多謝。

40歳を越えて、はまってしまった。下半身はおろか、頭の前まで浸かってしまった。中年過ぎには、道楽がすぎる。廻りではみんなそう言うがそんなこと構っちゃ居られない。

もう仕事が終わる頃にはムラムラしてくる。あいつの呼ぶ声が脳味噌をよぎる。

もう直き、会えると思うと気も漫ろだ。

金はたっぷりと掛けたし、俺好みに変身しつつある。言う事は聞くし肌はまっ白、スタイルは舶来真っ青と来た日には夢中になるのも無理はないだろう。たまにむくれて怒った顔もするけど、まあそこは俺も大人だし、それなりのテクニクで……。あいつとはあったその日から相性がピッタリで毎日のように会っている。



ちなみに私のバイクは後方です

最初の頃はさすがの俺も相手の心が読めず、苛々したこともあったが壺を心得たときには、もう拍手喝采狂気舞言語道断阿鼻叫喚、新しい世界が広がった様な気分だったことを思い出す。去年の12月からの付き合いだからもう半年になる。まだまだ新鮮な関係が続いている。飽きっぽい俺にとっては画期的なことだ。この間、買ってやったアクセサリーを身に付けたときには心から最大級の賛辞を惜しまなかった。まだまだこいつには、新しい可能性を秘めている、類稀なる才能を持っている、あらためてそう感じた。

治療法(他人への感染法)

今晩も1時過ぎまで一緒だった。もう戻れない、一連托生唯我独尊高麗人参シェーンカムバック症候群の末期だ。自覚症状が出てからではもう遅い。こいつには早期発見早期治療が肝心なのだ。肝臓病と似ている。しかし、こいつには治療法が確立している。唯一の救いである。こんな気持ち人をうつつせよいのだ。仲間を増やし慰め合うのだ。こんな病に掛かったことを嘆いて。

- 1 大きい電化店に連れて行く。
- 2 一番上の階へ昇る。
- 3 店員にマックはどこにいるかと聞かせる。(含み笑いで教えてくれる)
- 4 そこに連れて行く(ここで恥かしがったら駄目)
- 5 暗号:「マッキントッシュおくれ」と小声でささやく
- 6 10数枚の紙幣と交換で渡してくる
- 7 足早にその場を去る(振り返っては駄目、絶対に)
- 8 家に直行

ここでもまたパソコン

中毒患者が一人ででき上がり

というわけで最近パソコンに夢

「追

憶

中で夜も日も明けないと言う脳天気なミドルエイジブラザーのちよつと思わせぶりの堅茹卵風雑文でし

た。
失敬

佐藤 功（札幌）

何気なく「どうじん」を手にとり見ていると、表紙側の写真になにか、懐かしさを感じた。サロベツ原野からみた利尻岳とある。ああやはりあの利尻富士だとうれしく思った。子供の頃富士山といえは利尻富士であった。日本各地には、この様に土地によって様々な富士山があるという。そして利尻富士はこの海岸線、多分、稚咲内であろう。この地より見るのが一番美しいといわれていたのである。



数年前、同じ様な懐かしさから、中学2年の春まで過ごしたこの地を訪れた時季を、思い出していた。札幌から夜行列車で8時間、そこからバスで砂利道を40分、ガタゴトと砂煙をまきあげ漸く着く山間の小さな炭鉱である。私は窓もあけられないこのバスが苦手で必ず酔いダウンしたものである。だから少々時間がかかるが、日に3度程往復する、石炭の積み出し列車を利用していった。今は懐かしいSLである。料金も安く（払った記憶はないが）子供には金で、駄菓子屋でけっこう遊べたものである。ゴトゴトと線路の音も心地良くなかなか風情があった。途中1ヶ所坂が有り、かなり連結していると登るのに難儀であった。こ

こにさしかかると意を決した様に汽笛を鳴らし進むのであるが大抵1度では登れず何度かやりなおし、その度に真つ黒な煙と蒸気を吐き苦しそうにボウボウと鳴くのである。そして客達も静まり、力がいり、登りきった時にはホーッとし拍手さえ出るのである。今想えば約16kmの所を小1時間程かかるのだからなんともノンビリとした話である。そう、ここでは時季は長くゆつくりと刻まれていた。家々に鍵などかけたことはなく、どこでどう伝わったか、晩ご飯のおかずまで皆わかつていた。しかし、そののどかな穏やかさが、実は疎ましくイライラする事にもなっていたのである。娯楽というものはほとんどなく、1軒あったらしいパチンコ店も物心つく頃には、もうつぶれていて、週に1度の映画が唯一の娯楽であり文化であった。料金も20〜30円だったと思う（払った事がないので定かではない）。東映の時代劇に胸おどらせ、皆なりきってチャンバラゴッコをして、そのうち本気になり誰かが血を出し（たいしたケガではない）、ワーンと泣いて一件落着となる。

ちなみに私は怪傑黒頭巾の大友柳太郎と、まだ若くスマートな、風小僧の山城新吾が大好きだった。そして日活アクション映画である。これはもうほとんど石原裕次郎であった。映画館を出ると皆あの独特の長い足をもてあました歩き方になっているのであるが、なにせメートルが違いすぎるので誠に滑稽なものであった。でも私は今よりフツクラとして目の大きな浅丘ルリコが大好きであこがれていた。「赤いハンカチ」で目にいっぱい涙をためていた彼女は可憐でとにかくイイのであった。女は是く有るべきなのだ！そして森繁の東宝喜劇である。これはお調子者が翌日にまねをしては先生におこられ、立たされていた（断じて私ではない）。これはいかにも明るく都会的で、シャレて見え、街と大人へのあこがれをまわすといった。松竹は女性には人気があった様だが子供には全く退屈であった。しかし大抵は苦勞して席を隣にした女の子が気にかかり、ほとんど内容は憶えていなかった様である。冬の訪れは早く、10月もなかばになると根雪となり、5月まで何もな

い白い世界に閉ざされる。只々ス
キーに興じ、正月には秋に仕込ん
だ自分だけの山ぶどう酒や、祖父
の自家製ドブロクを隠れ飲みし、
真っ赤になっていたものである。
酒グセの悪さはこの頃からつちか
われていたのであらうか。冷えこ
んだ晴れた日に眩しく光っていた
ものがダイヤモンドダストとい
うものであり、早春に白い花をつ
ける「ヘビの枕」といって嫌われて
いたものが、水芭蕉といつて観賞
され好まれていることを知ったの
は大分後のことであつた。そうい
つた想い出のいつばいつまった故郷、
反面、忌み嫌ひ速く出ることだけ
を考えていた故郷、それがあつた
突然「閉山」のひとつで全てな
くなったのである。石炭を洗い真
黒に流れていた川も今は清流とな
り、遊びほうけていた野山は只々、
うっそうと木が生い茂り人の出入
りを拒み、動物達の安住の地とな
っている。不似合いなアスファルト
道路が1本のびているだけで、昔
ここに集落があつたなどとはとて
も想像できず、走り回った路地・
家々・夜お使いに行かされた暗く、
てコワイあの長い道が何と短く、

あの広がったはずの世界はほんの
箱庭の様なものであつたことに嘔
然とし、あの時季がまるで夢であ
つた様な錯覚におちいりそうであ
つた。でも確かにあの時季自分はこ
こに生まれ、あそび・泣き・笑い・
眠り・時季の流れにイラダチなが
らも、未来を夢見・希望にふくら
んでいたのである。若者は輝く瞳
で荒野を目指し、老人はその想い
出と一杯の酒を友とする」とい
けれど、今自分は、どこに立ち何
を見ているのだろうか。小生42歳
未だ惑いばなしの人生である。



道賢協の事務局員として人
工透析を受けながら、199

♡ 飯村歩さんおめでとう♡

1年の3月まで約4年間、故中村
信夫事務局長や前堀井和彦事務局
長のもとで頑張つて来られた飯村
歩さんが、2年越しの愛を交わして、
この5月27日に札幌の羊ヶ丘の教
会で、めでたく挙式を行いました。
新郎の小泉信浩さんは健常者で、
歩さんが道賢協を退職されたあと、
勤務されていた職場で出会ったと
の事。

披露宴は新郎の所属されて
いるクラブバンド（ブラスバ
ンド）の演奏会を兼ね同レス
トハウスで結婚披露演奏会と
いう大変ユニークな形式で行
われ、事務局員時代から懇意
にしていた仲間も大勢かけつ
け、心より祝福致しました。
ちなみに飯村さんは透析18
年で、新郎は年下ですヨ。皆
さんも頑張りましたヨ。
お二人の未来に乾杯!!

国立病院・療養所の充実を求める 国会請願署名結果報告

ブロック名	署名数	ブロック名	署名数
札 幌	800	網 走	200
小 樽	400	夕 張	50
旭 川	0	紋 別	80
稚 内	80	岩 見 沢	0
留 萌	100	江 別	44
道 南	309	浦 河	88
苫 小 牧	206	根 室	0
室 蘭	120	千 歳	0
滝 川	0	北 見	120
十 勝	346	深 川	50
釧 路	280	そ の 他	30
合 計			3,357

阪神大震災救援

募金について

“どうじん” 52号以降に募金を送っていただいた方、

○透析栄養士研究会

代表 西尾久美子様より

○道南ブロック 10、000円

○小樽ブロック 130、250円

○小樽ブロック 15、000円

○室蘭ブロック 20、000円

合計で1、994、686円となりました。

なりました。

ご寄付をいただきました

札幌腎友会会員故和田保三様のご遺族の和田秀様より、10万円のご寄付を頂きました。

《北海道腎バンクへ寄付》

道腎協では去る3月30日に岩崎会長が、平成6年度分の募金箱から回収された募金68、218円

を持参し、道腎バンクの事務局長へ手渡しました。

“入院給食費に関する

更生医療給付申請

必要書類”について

◎更生医療指定機関に入院した場合のみ申請が出来ます。又、申請書は事前あるいは、入院当初に提出する事。

必要書類

1 更生医療給付申請書

2 更生医療給付意見書（指定医療機関の主治医の診断書）

3 所得証明関係書類（本人を含め世帯全員）

(1) 前年分の源泉徴収票（会社員で年末調整している方）

(2) 前年分の確定申告書の控えで受付印のあるもの（事業している方及び会社員で転職の方）

※受付印のない方及び紛失した方は、納税証明書その1

(3) 前年分の源泉徴収票のはがき（年金受給の方）

- (4) 課税証明書
(5) 生保受給証明（生活保護受給の方）

4 世帯状況届

5 健康保険証

6 身体障害者手帳

7 印鑑（シャチハタは除きます。）

★ お問い合わせ先

各市町村役所（福）福祉課福祉係

“編集室だより”

○編集室では会員の皆様からのご投稿、表紙の写真、ご意見、ご希望をお待ちしております。

採用させて頂いた方には記念品を進呈致します。

表紙の写真はカラー写真で、2Lサイズかネガを同封し、簡単な説明文を付けて下さい。

○送り先

001 札幌市北区北35条西5丁目

AMS南麻生308号室
北海道腎臓病患者連絡協議会編集委員会行

編集後記

○連日のオウム報道にもういい!! と思いつつ気になる毎日。ハルマゲドンはこななくても精神的には充分ショックな出来事でした。

(神座)

○阪神大震災で、ボランティア活動が取り上げられているが、日本ではまだ定着せず、欧米に数十年の遅れをとっているといわれてきた。確かに組織とか運営方法では欧米の方が一歩先を行っているのだから、ボランティア活動の本質は心の問題であり、そういう点から見ると、決して日本が遅れているというのではないことが今回の大震災に限りならず、これまでの大震災で証明されてきた様に思える。しかし、ボランティア活動にも限界があります。これからは、国が被災者の心情をよく理解してその立場に立つて被災者の救済に全力を尽くしてくれることを願ってやみません。

○釧路総会も無事終了し、ホッと一息も束の間、さあ決めたこと守らなければ、がんばろう!

(川村)

（エンジョイの効果は、 こんな論拠で示されています。）

尿毒症毒素の大半がたんぱく質代謝産物によるもの



低たんぱく食により、たんぱく質の摂取を抑えると…



尿毒症の抑制



同時にリン・カリウムの摂取も効果的に制限できる



腎不全の進展を遅延させ、透析治療への導入も大幅に遅延できる

しかし



低たんぱく食を続けることはメニュー的にも、環境的にも難しい

エネルギー不足の場合、栄養障害が起こり、高カリウム血症が出たり、活動能力も低下する

- 社会復帰を前提とする患者さんにとって、活動の増加や外食機会の増加は必然です。今までどおり低たんぱく食を続けていくことに困難が出てくる場合も考えられます。



リンやカリウムを低く調整しながら、普通に近い食事のエネルギーが摂取できる食品があればいいのに



そこで

食事メニューの中のたんぱく質の一部を「エンジョイ」と置き換えるだけで、リンやカリウムを低く抑えることができ、かつ、良質なたんぱく質をとることができます。



左記低リン食品について資料をご希望の方は、官製はがきに を切り取って貼り、〒、住所、氏名、電話番号、年齢、透析年数、透析病院名をご記入の上、下記へお送り下さい。



札幌市白石区流通センター1丁目11番17号
森永乳業株式会社札幌支社
低リン食品担当係
TEL (011) 865-2821(直通)